

千葉県の麻しん発生 状況・対応等について

令和8年2月6日

千葉県健康福祉部疾病対策課

感染症予防班

①千葉県の麻しんの発生状況等について

麻しん：麻しんウイルスによって引き起こされる急性の全身感染症

症状

- 発熱、全身の発疹、咳、鼻水、目の充血など
- 合併症で肺炎、脳炎を起こすこともあり

宿主

- ヒトのみ

感染経路

- 空気感染、飛沫感染、接触感染 **感染力は非常に強い**
- 発症日1日前から解熱後3日間経過するまで感染性あり

治療

- 特異的な治療法なし 対症療法

予防

- 手洗い、マスクのみでは十分な予防が困難 **ワクチン接種が有効**

麻しんの対策は感染症法を根拠法とし、予防指針に沿って実施

- 感染症法

5類感染症・全数把握疾患

診断後、直ちに届出が必要 「1例出たら即対応」

- 「特定感染症予防指針」が定められている疾患

- ★特定感染症予防指針とは？

- 特に予防のための施策を推進する必要があるものとして国が定めた指針

- 結核、風しん、性感染症、蚊媒介感染症、エイズ、ARI等で策定

特定感染症予防指針について(H19.12.28付け / H31.4.19一部改正)

- ・ 目標

麻しんの「排除状態※」を維持

※排除状態:適切なサーベイランス制度のもと、土着性の感染伝播が1年以上ないこと

- ・ 麻しん対策の概要

原因の究明

発生予防とまん延防止

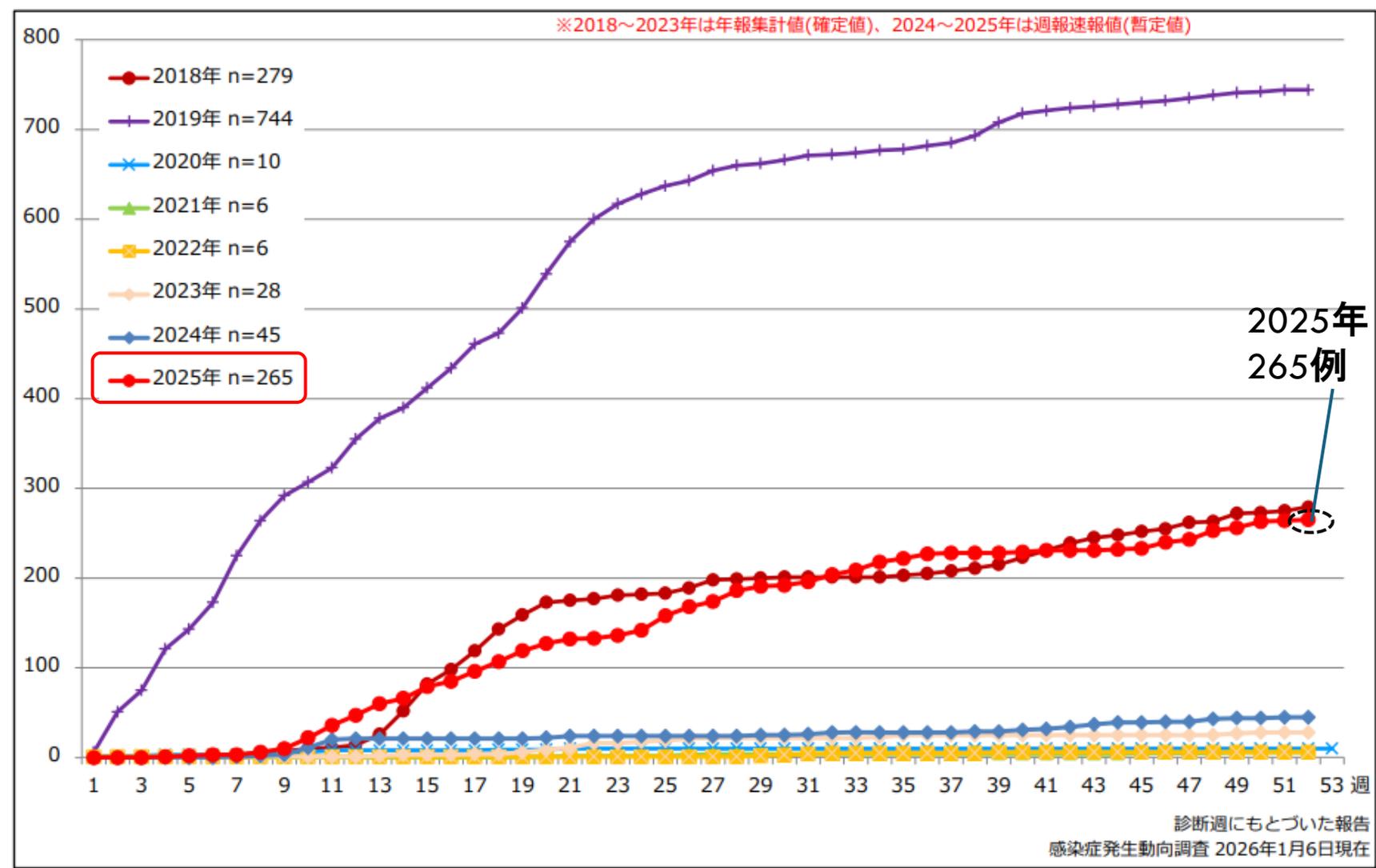
医療の提供

研究開発と体制整備

国際連携

評価・普及啓発

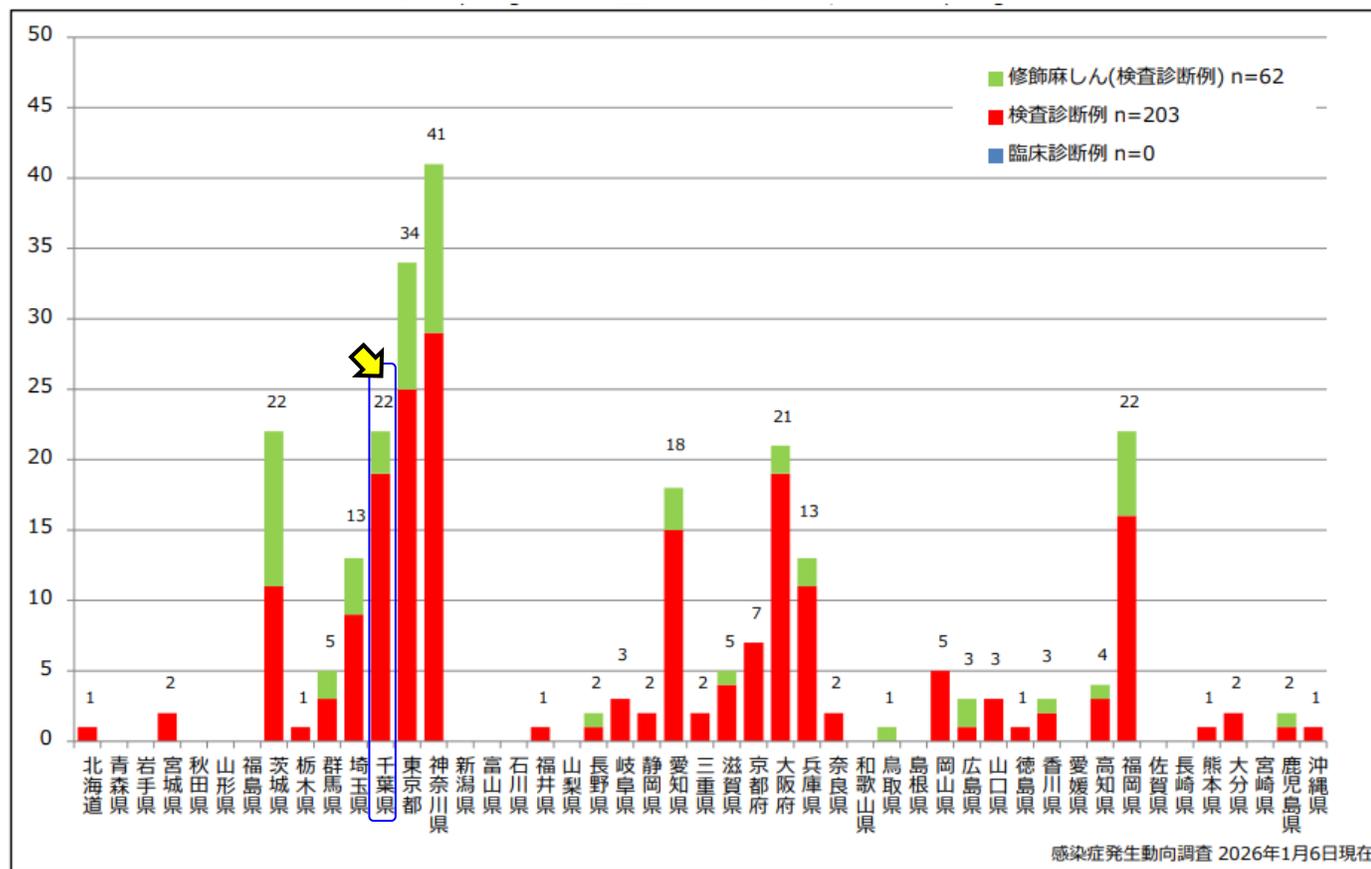
2025年は265例患者が報告 2018年とほぼ同水準



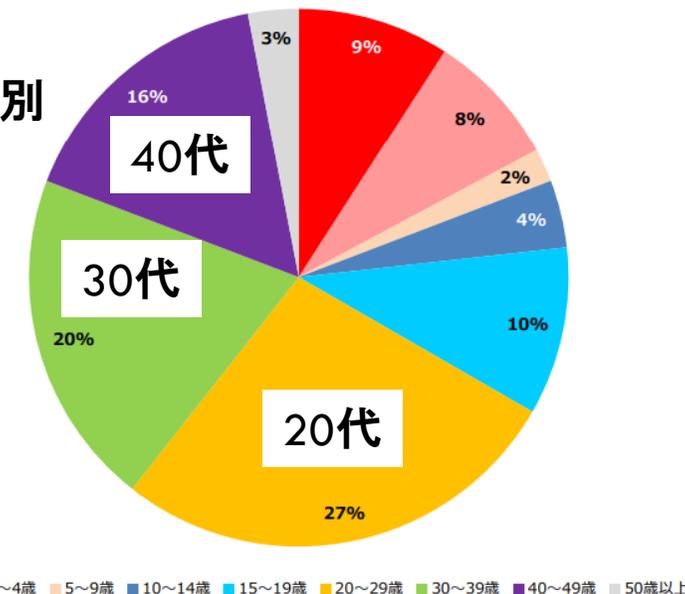
参考:麻疹 発生動向調査(国立健康危機管理研究機構) 2025年第52週より

本県は神奈川県(41例)、東京都(34例)に次ぐ全国3位の患者数(22例)
年代別では20～40代が多く、ワクチン接種なし・不明が全体の6割以上を占めた

①2025年都道府県別発生数



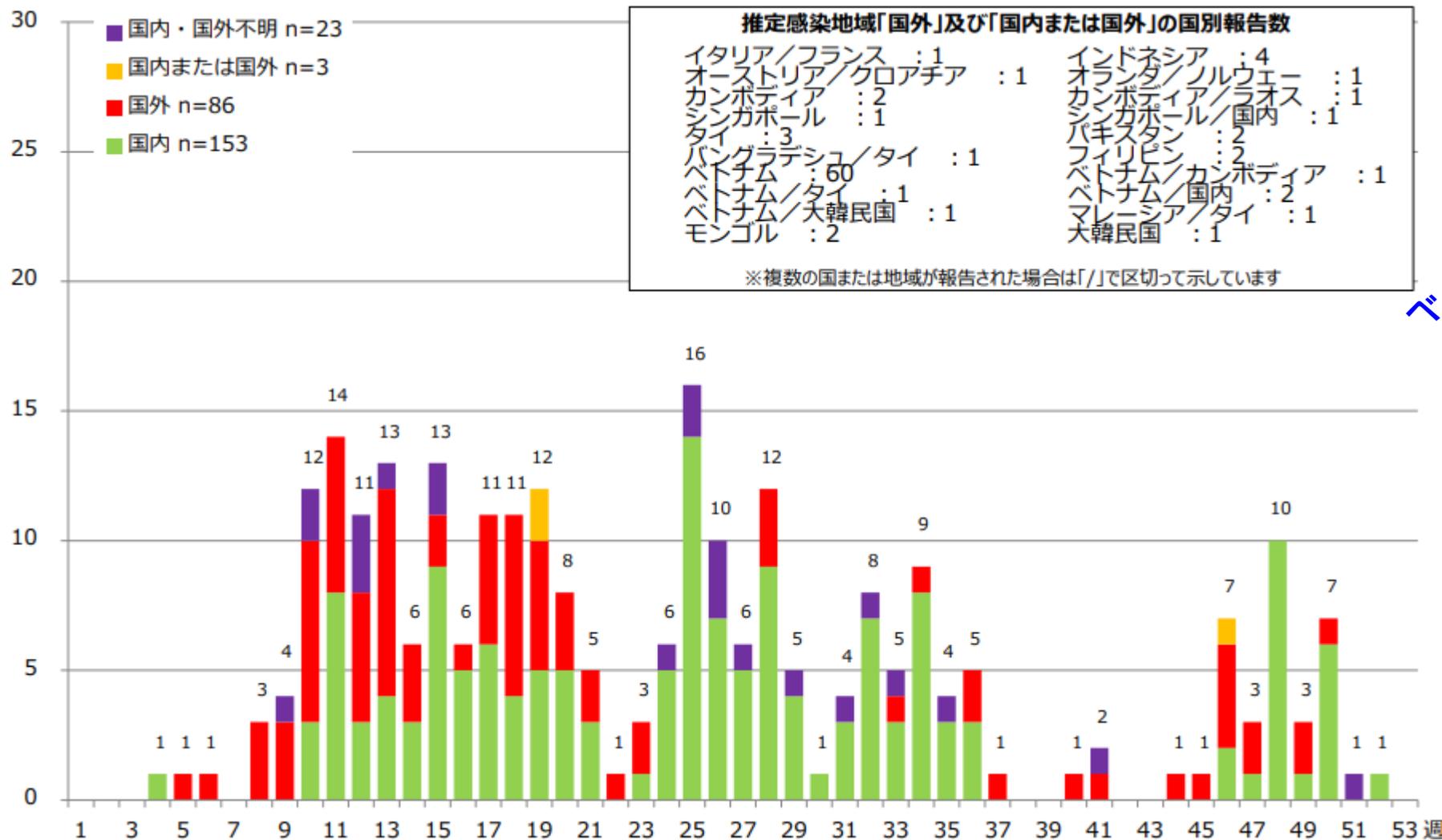
②年代別



③接種回数別

ワクチン接種回数	件数	割合
2回接種	52	19.6%
1回接種	46	17.4%
接種なし・不明	167	63.0%
合計	n=265	

前半は東南アジア等での国外感染例が多く発生 最近(2025年37週以降～)ふたたび国外感染例が増加傾向



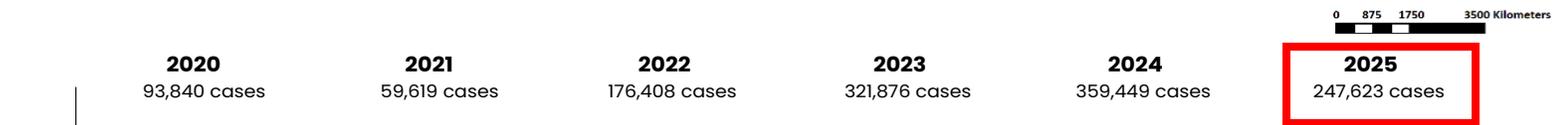
ベトナムが最も多い
65/89

参考：世界の麻疹発生数(WHO)

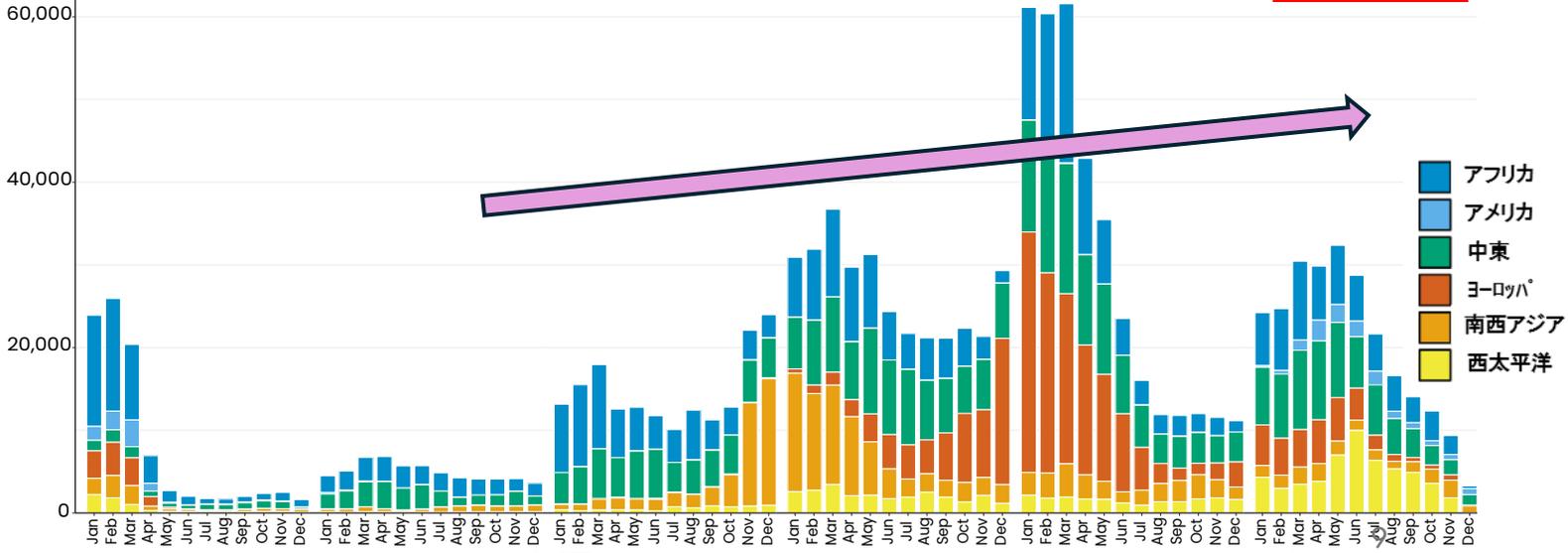
表：発生数の多い国(過去6か月間)

国名	Cases
インドネシア	14,406
イエメン	9,277
モンゴル	8,483
パキスタン	8,310
インド	8,184

過去6か月間の麻疹発生数



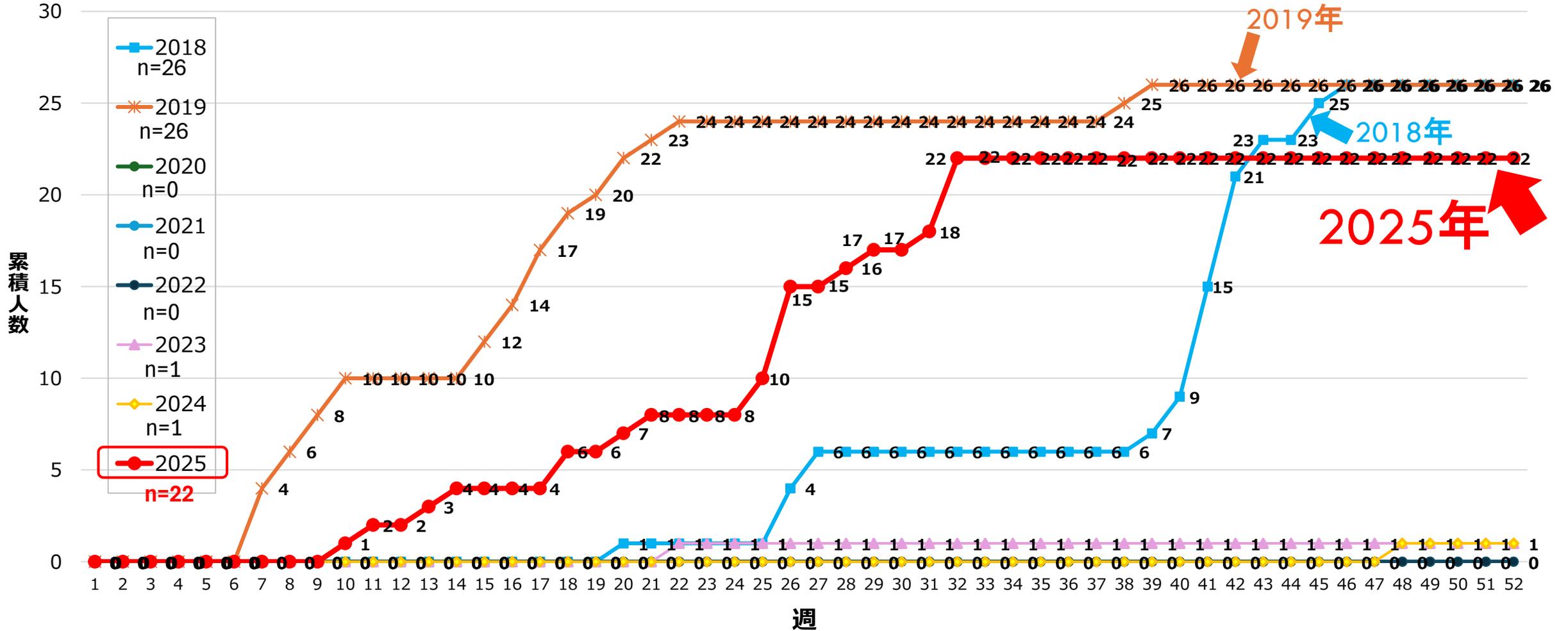
- 2021年以降世界の麻疹患者数は増加傾向
- アジア、中東、欧米、アフリカ等さまざまな国・地域等で患者が発生



参照：Global Measles and Rubella Monthly Update (WHO)

2025年は2018,2019年とほぼ同程度の届出数

図:2018年~2025年までの県内麻しん患者の累積届出数



2025年千葉県内の麻しん患者一覧 (n=22)

No.	HC	性別	年代	発症日	診断週	ワクチン接種歴	渡航歴等	遺伝子型	備考
1	市川	男	40代	2月26日	10	不明またはなし	あり	B3	
2	柏市	男	20代	3月14日	11	2回	なし	B3	No.1の接触者
3	松戸	男	20代	3月22日	13	不明またはなし	なし	B3	
4	柏市	女	10代	4月3日	14	2回	なし	不明	
5	松戸	男	30代	4月25日	18	不明またはなし	あり	B3	
6	印旛	男	10歳未満	4月21日	18	不明またはなし	あり	B3	
7	印旛	男	20代	5月13日	20	不明またはなし	あり	B3	
8	印旛	男	20代	5月23日	21	不明またはなし	あり	B3	No.7の接触者
9	君津	男	40代	6月9日	25	不明またはなし	なし	B3	
10	柏市	男	40代	6月11日	25	1回	なし	不明	
11	印旛	男	20代	6月8日	26	不明またはなし	なし	B3	
12	印旛	女	30代	6月21日	26	不明またはなし	なし	B3	No.11の接触者
13	君津	女	30代	6月23日	26	不明またはなし	なし	B3	No.9の接触者
14	千葉市	女	40代	6月20日	26	不明またはなし	なし	B3	
15	千葉市	男	40代	6月23日	26	不明またはなし	なし	B3	
16	柏市	女	10代	7月7日	28	不明またはなし	なし	B3	他管内患者の接触者
17	船橋市	男	30代	6月25日	29	1回	あり	B3	
18	千葉市	女	40代	7月19日	31	不明またはなし	なし	B3	
19	海匝	男	10歳未満	7月31日	32	不明またはなし	なし	B3	
20	香取	男	20代	8月1日	32	1回	なし	B3	
21	香取	男	20代	8月3日	32	2回	なし	B3	
22	印旛	男	10代	8月3日	32	2回	なし	B3	

**男性が7割以上で多く、年代別は20～40代が全体の約8割を占めた
ワクチン接種歴不明またはなしが約7割、渡航歴「なし」が7割以上で多数だった
遺伝子型は不明なものを除き、全てB3だった**

		人数	%
性別	男性	16	73%
	女性	6	27%
年代	10歳未満	2	9%
	10代	3	14%
	20代	7	32%
	30代	4	18%
	40代	6	27%
	50代以上	0	0%
届出 保健所	印旛	6	27%
	柏市	4	18%
	千葉市	3	14%
	松戸	2	9%
	香取	2	9%
	君津	2	9%
	市川	1	5%
	海匝	1	5%
	船橋市	1	5%

		人数	%
ワクチン 接種回数	不明またはなし	15	68%
	2回	4	18%
	1回	3	14%
渡航歴	あり	6	27%
	なし	16	73%
遺伝子型	B3	20	91%
	不明	2	9%

渡航歴有
6例のうち5例は
ワクチン接種回数
不明またはなし

その他、2次感染例や接触者の発症例も確認

2026年の届出状況

これまでに2例報告 (R8.2.2時点)

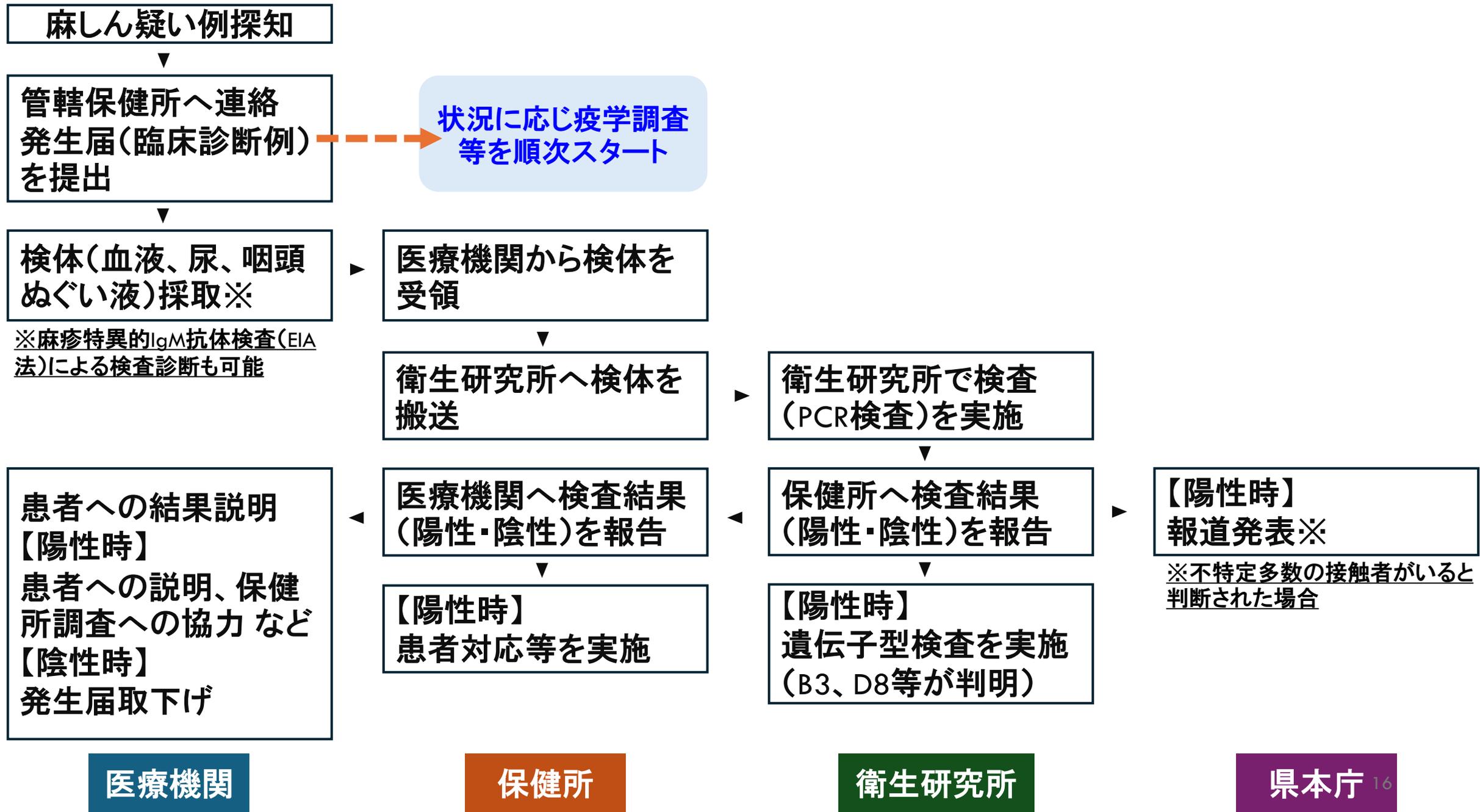
	No.1	No.2
管轄保健所	市川保健所	松戸保健所 ※習志野市在住
年代・性別	40代・女性	30代・男性
発症日	1月13日	1月16日
届出日	1月21日	1月26日
症状	発熱(2峰性)、咳、咽頭痛、発疹、結膜充血、消化器症状等	発熱、咳、結膜充血、眼脂、コプリック斑、発疹、消化器症状等
ワクチン接種歴	不明	なし
海外渡航歴	12月24日～1月4日まで東南アジアへ渡航	なし
対応等	患者に対する調査、接触者特定・対応を実施	患者に対する調査、接触者特定・対応を実施

②千葉県大麻しん対策について

特定感染症予防指針に記載されている各施策の概要

原因の究明	<ul style="list-style-type: none"> ※ 感染症発生動向調査の実施 ※ 遺伝子検査を全例で実施 ※ 積極的疫学調査、接触者調査の実施
発生の予防とまん延防止	<ul style="list-style-type: none"> ※ 予防接種の推奨 ※ 麻しんワクチンに関する情報を県民や関係機関へ提供
医療の提供	<ul style="list-style-type: none"> ※ 適切な診断のための医療機関への情報提供 ※ 県民への初期症状や早期受診の重要性を周知
研究開発と体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ※ 安全で効果的なワクチンや治療法の研究開発の推進 ※ 予防接種歴が確認しやすいシステムの整備
国際連携	<ul style="list-style-type: none"> ※ 国際機関等との連携、WHOで定める目標の達成等
評価と普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> ※ 麻しん・風しん対策推進会議の実施 ※ 関係機関等と連携し、地域における施策の進捗状況を評価 ※ 麻しん及びその予防に関する県民等への適切な情報提供

⑪県における麻疹疑い例探知と感染症発生動向調査、検査



令和7年度、麻しん疑い例の検査数が倍増

表：令和6年度、令和7年度の県衛生研究所における麻しん疑い例の検査実施状況

年度	疑い例の 検査合計数	備考
令和6年度	63	
令和7年度	137	習志野(習志野・市川)、松戸(松戸・野田)、印旛保健所管内で各30～40件以上対応



保健所→衛生研究所への検体搬送の負担が増加

麻しん患者の積極的疫学調査や接触者調査は 各種ガイドライン等に沿って実施

- 患者や医療機関へ聞き取り、感染可能期間中の行動歴を把握
- 接触者（特にワクチン未接種者等の高感受性者）の迅速な特定
- 接触者に対するアプローチ（健康観察、緊急予防接種等）の実施
- 関係機関等への情報提供、注意喚起

各種ガイドラインやマニュアルを参考に対応

国、県で制定済みの麻しん関係のガイドライン、マニュアル

● 国

麻疹発生時対応ガイドライン第二版 暫定改訂版 H28.6月

医師による麻しん届出ガイドライン 第五版暫定修正版 R5.5月

医療機関での麻疹対応ガイドライン第七版 H30.5月

学校における麻しん対策ガイドライン第二版 H30.2月

都道府県における麻しん風しん対策会議等に関するガイドライン第二版暫定改訂版 H28.6月

● 県

【全県】

千葉県麻しん対応マニュアル(Vol.3) **H22.12月制定**

【地域】

医療機関向け麻しん届出に関するハンドブック【海匝保健所版】

医療機関向け麻しん届出に関するハンドブック【印旛保健所版】

➡ 県の対応マニュアルが古くなっておりアップデートが必要

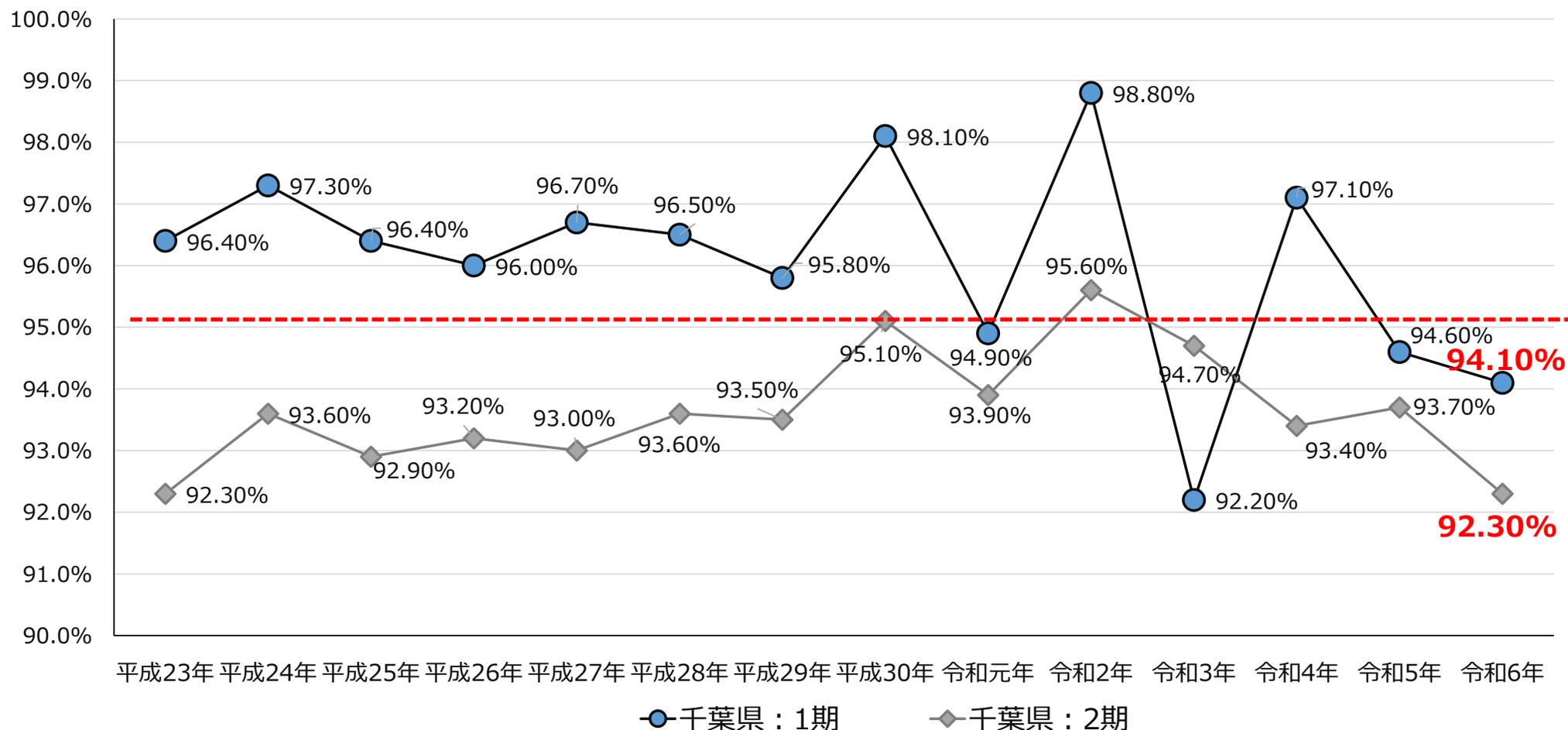
現状の県対応マニュアルの課題

- H22年度時点の排除認定取得を目指していた時期の内容が記載されており、内容が古くなっている
(例)第1期～第4期のワクチン接種などの記載が残存
- 最近の発生動向(輸入例が発端、成人症例が多い等)と合致しておらず、学校が中心となる記載が見られる
- その後、国(感染研)が作成した各種ガイドライン等の内容が反映されていない

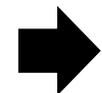
麻しん及び風しんは2回のワクチン接種により予防可能

- 2回接種で約95%で抗体がつくと報告されている
→ 予防接種法で定期接種対象疾患(A類)として位置付けられている
- 麻しん風しん混合(MR)ワクチンを2回接種
第1期: 1歳の1年間
第2期: 5歳以上7歳未満、小学校就学前1年間
- 流行を防ぐためには、95%以上の接種率が必要

前年比で1期、2期いずれも減少 95%を下回った



令和6年度 全国の状況
 1期：92.7% 2期：91.0%



全国平均よりは高いが本県も低下傾向にある

MRワクチンの出荷停止事案が発生

- R6年1月、武田薬品工業株式会社のMRワクチンが出荷停止
- それに伴い、他メーカーのMRワクチンについても出荷量の調整等が行われ、一部の自治体及び医療機関において、MRワクチンの供給が行き届かない状況が発生
- 他メーカーによる増産や前倒し出荷等が実施され、R7年度は例年と同程度の供給量が確保される見込み
- 令和6年度の定期接種の対象者に対し、「令和7年4月1日から令和9年3月31日まで」の2年間、接種対象期間を超えて接種を行って良い旨を国が通知

県において、MRワクチンの著しい不足等の報告は受けていない

行動歴調査の結果、接触者が特定できない事例の場合には、報道発表による注意喚起を実施

・ 目的

法第16条による患者と接触した可能性のある者の把握＋感染症をまん延させないための適切な行動等を個人が取れるようにするために必要な情報の提供

(例)患者調査の結果、行動歴において、感染可能期間中に利用した公共交通機関や不特定多数と接する場所等を公表

★2025年県で発生した麻しん事例に関する報道発表実施件数

10件 / 14件※

※県管轄のみ 千葉市船橋市柏市の8事例除く

※10件のうち1件は他自治体にて発表

・ 方法

プレスリリース、ホームページ掲載等

報道資料 ★ 千葉県
Chiba Prefectural Government

CHIBA 令和7年8月13日
健康福祉部疾病対策課
043-223-2574

麻しん（はしか）患者の発生について

成田市在住の10代の男性が、令和7年8月9日に麻しんと診断され、同市内の医療機関から印旛保健所に麻しんの発生の届出がありました。当該患者の疫学調査を行った結果、他の人に麻しんを感染させてしまう可能性がある期間（感染可能期間）に、不特定多数の方が利用する施設等を利用していただくことが判明しましたので、お知らせします。現在、県内で麻しんの患者が増えていますので、予防接種の実施等感染予防に努めてください。

1 感染可能期間（発症日前日の8月2日以降）に患者が利用した施設等

利用日	時間帯	利用した施設等
8月2日（土）	午後4時30分頃～午後6時30分頃	徳和庵 成田美都台店
8月3日（日）	午後6時頃～午後8時頃	

※ 各施設等への連絡内容は、間違えくばりませんようお願いします。
 ※ 現在、上記の施設等を利用して感染の恐れはありません。
 ※ 接触者が特定できておらず、不特定多数の接触者がある可能性がある施設については、広く情報提供するため、施設名や公共交通機関等を公表しています。

2 患者の概要

(1) 基本情報：10代・男性、成田市在住 麻しん予防接種歴 2回
 (2) 症状：発熱（39.9℃）、咳、発しん
 (3) 経過等

日時	患者発生の経過等
8月3日	発症（発熱）
8月5日	成田市内の医療機関 A を受診
8月6日	発しん、咳
8月8日	医療機関 A を再受診
	成田市内の医療機関 B を紹介受診
8月9日	医療機関 B にて麻しんの診断、届出 検体（尿、鼻分泌液、血液）採取
8月10日	県衛生研究所の遺伝子検査の結果、陽性

※ 行動歴調査等から、特定された接触者については個別に対応を行っています。
 ※ 当該患者につきましては現在快方に向かっています。

県内の麻しん発生状況は毎週千葉県感染症情報センターHPにて更新



千葉県感染症情報センター

千葉県感染症情報センターとは、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」による施策として位置づけられた感染症発生動向調査により得られた情報を集計・分析するとともに、情報提供・開示するため、千葉県衛生研究所に設置されています。

週報/月報

新型コロナウイルス感染症/インフルエンザ/麻しん/百日咳/腸管出血性大腸菌感染症/感染性胃腸炎/梅毒/風しん

医師・獣医師の皆様へ(感染症法の届出について)/リンク

週報

PDF 2026年第2週 (2026年1月5日から2026年1月11日) (PDF: 771.7KB)

千葉県の麻しん発生状況 2025年第52週

千葉県では、2025年第52週に届出はなく、2025年の累計は22例であった。
全国では、2025年第51週に滋賀県で1例の届出があり、2025年の累計は264例となった。

1. 2025年千葉県の届出状況

No.	保健所	性別	年齢	病型	発症日	診断日	診断週	接種歴		遺伝子型	備考	
								1回目 (年齢)	2回目 (年齢)			
1	市川	男	40代	麻しん(検査診断例)	2月26日	3月7日	10週	不明	不明	B3	渡航・滞在先(ベトナム)	
2	柏市	男	20代	修飾麻しん(検査診断例)	3月14日	3月14日	11週	有	有	6	B3	No.1の接触者
3	松戸	男	20代	麻しん(検査診断例)	3月22日	3月28日	13週	無	無		B3	

感染症週報

麻しん情報

- 2025年までの県内の麻しんの発生状況について掲載しています。
- PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2025年1週から52週) (PDF: 161.9KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2024年1週から52週) (PDF: 150.4KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2023年1週から52週) (PDF: 139.5KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2022年1週から52週) (PDF: 215.2KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2021年1週から52週) (PDF: 215.9KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2020年1週から53週) (PDF: 214.6KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2019年1週から52週) (PDF: 234KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2018年1週から52週) (PDF: 225KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2017年1週から52週) (PDF: 218KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2016年1週から52週) (PDF: 281KB)
 - PDF 千葉県の麻しん発生状況 (2008年から2015年) (PDF: 306.3KB)

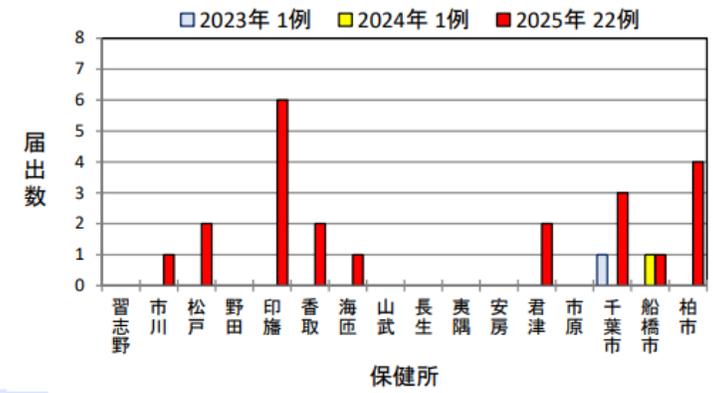
麻しん 特出し記事

最新の発生状況は千葉県感染症情報センターホームページを御覧ください

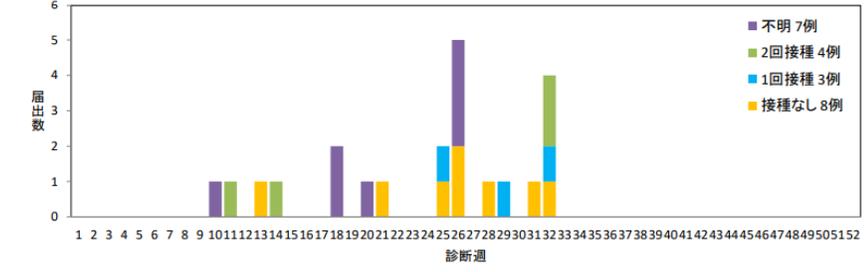
梅毒情報

- 2025年までの県内の梅毒の発生状況について掲載しています。
- PDF 千葉県の梅毒発生状況 (2025年) (PDF: 553.5KB)
 - PDF 千葉県の梅毒発生状況 (2024年) (PDF: 511.2KB)

2023年～2025年千葉県の麻しん保健所別届出数



2025年千葉県の麻しん週別・ワクチン接種歴別届出数 22例



今年度開催された麻しん対策推進会議の状況

- ・ 国における麻しん対策推進会議

厚生労働省、JIHSと各関係自治体が参加して麻しん等の発生事例について現状の共有や対応等について協議

→ 本県患者が関係した2事例について情報共有等を実施

- ・ 県(※3市除く)における麻しん対策推進会議

市川保健所管内、松戸保健所管内、印旛保健所管内、
香取海匝保健所管内で開催

→ 関係者間情報共有、研修会の実施など

➡ 患者が発生した6保健所管内のうち5保健所管内で開催

R6年度実施分ではEIA抗体陽性割合は92.1%だった

・感染症流行予測調査事業とは？

集団免疫の現況把握を行うため、国・都道府県が毎年実施している調査

年齢群 (歳)	合計 (人)	EIA抗体価							
		<2	2.0-3.99	4.0-5.99	6.0-7.99	8.0-9.99	10.0-11.99	12.0-15.99	≥16
0	1								1
1	0								
2-3	4					2	1		1
4-6	7		1		1				5
7-9	4				1			1	2
10-14	7		2	1	1	1	1		1
15-19	0								
20-24	7		1	1			2	1	2
25-29	11	1	2		2	2		2	2
30-34	14		1	1	1	3	2	2	4
35-39	10				1		2	2	5
40-44	15				2	2	4	1	6
45-49	16		3	3	1	2	1		6
50-54	25			2	1	1	1	2	18
55-59	15			1	1				13
60-64	3								3
65-69	1								1

129/140=92.1%

赤着色部分
EIA抗体価4.0以上=陽性
(抗体あり)

※資料追記
国の感染症流行予測調査における
実務上の陽性判定基準であり、
臨床・職域防御目的とは異なります

(参考)保健所職員等を対象とした抗体検査を実施

・目的

保健所等で麻しんや風しんの積極的疫学調査等、感染症関連業務に従事する職員を対象に麻しん・風しんの抗体価を測定し、抗体不十分者に対してワクチン接種を実施

- ・保健所で採血し、県衛生研究所にて抗体検査を実施**
- ・ワクチン接種は委託先医療機関にて実施**
- ・新規、再任職員等を対象**
- ・MRワクチンの自主回収事例に伴い、R5年度、R6年度は中止していたが、R7年度から限定的に再開**

発生状況

- 2025年は国内、県内ともに麻しん患者が増加
- 海外でも2021年以降麻しん患者の増加傾向、国内への流入リスクあり
- 県内麻しん患者の多くが20～40代の成人、約7割がワクチン接種歴不明またはなしで、二次感染や接触者発症例も確認

体制面

- 麻しん疑い例が増加し、保健所業務や衛生研究所の搬送・検査負担が増加
- 県対応マニュアルの内容が古くなっている
- 麻しん対策推進会議は6保健所管内のうち5保健所管内で開催

予防接種

- 定期接種率が95%を下回る状況が継続、全国平均よりは高いが減少傾向

論点：今後の麻しん対策について

■マニュアル・運用の統一

- ・ 地域のマニュアルをベースに、県全体のマニュアルを見直す方針としたい

■地域連携の推進

- ・ 麻しん事例の発生時、関係者との連携・情報共有は重要であり、麻しん発生時の麻しん推進対策会議の着実な実施のために必要な体制はどうか。

■情報公開等

- ・ 事例発生時の事例公表や情報共有について検討すべき事項はあるか。